



# 亀っ子だより

第22号

— 亀崎小学校 校長通信 —

2020年6月22日

## 栽培委員に感心

梅雨入り宣言がされる前日、大放課に栽培委員が集まり、校歌碑の周り与时計台の周りに花の苗を植えました。100を超えるポットを20名程度で植えるので、きっと大放課だけでは無理だろうと思っていました。ところが、6年生の栽培委員はもちろんですが、今年度から委員会が始まった5年生も手際よくどんどんと植えていくのでびっくりしました。時計台下の花が植え終わると、今度は校歌碑の周りに集まってきて、まだ植えていない苗を全部植え終えてしまいました。そして、私が苗を取り出したポットを集めて持っている、「ポットの置き場所を知っているから、ぼくが置いてきます」と言って、ポットの後片付けもやってくれました。頼もしい栽培委員だと感心しました。

亀崎小が大切にしている言葉に「花・歌・あいさつ」があります。学校に花がいっぱいあると子どもたちの心も豊かになると思っています。今年度もこの栽培委員の子どもたちの活躍を楽しみにしています。



## とりあえず運動場に行ってくる

6月のはじめ、休校が終わり子どもたちはどんな遊びをしているのかと運動場に様子を見に行きました。昇降口前で出会った6年生の男の子たちに「今日は、どんなことをして遊ぶの?」と尋ねると、「とりあえず運動場に行ってくる」と言って運動場の真ん中めがけて走って行きました。休校中、子どもたちの運動不足を心配していましたが、この言葉を聞いてなんだかほっとしました。きっと家の中で友達と運動場で遊ぶことを心待ちにしていたのだらうと思いました。子どもたちの姿にたくましさを感じました。

## 給食の時間、 静かにもりもり食べています

給食の時間、教室をのぞきに行くと、子どもたちは協力して配膳をしています。去年までとは違って、給食当番がお盆で給食を配るので、おかずやご飯が滑り落ちないか心配していましたが、しかし、低学年の子たちも上手に配っています。食べる時は、静かに黙々と食べています。1年生もとても静かに食べていて、教頭先生と「すごいね」といつも話しています。おしゃべりをしないので、子どもたちの食べもよいのではないかと思います。でも、楽しく会話をしながらの給食が一日も早くできるようになることを私は待っています。

## 初めての糸通し、初めての玉結び

5年生の教室の前をカメラをもって歩いていると「今から、生まれて初めて針に糸を通すから写真に撮ってください」と誘われました。子どもたちは、針を針山に立てて、針の穴に糸を一生懸命に通していました。通った瞬間「やった！」と歓声を上げる子もいました。持っている糸が細かったり太かったりで苦労している子もいましたが、周りの子と担任の先生との協力でクラス全員が糸通しができました。次は、玉結びです。これも初めての子にとっては難題で、説明の映像を目をこらしてみた後、一生懸命に取り組んでいました。授業が終わるまでにはなんとか全員ができていたように思います。「次の時間は、玉留めを行います」との先生の予告に、子どもたちは目を輝かせていました。

学校で、ご家庭で、社会体育で、様々な場所で子どもたちは初めてのことに出会い、挑戦し、知識や技術を身につけていきます。そのときの「できた」「分かった」の感動を大切にしたいと5年生の姿を見てあらためて思いました。「これくらいはできて当たり前」と大人の物差しで見ないで、「できた」「分かった」の感動を子どもとともに分かち合えたら、きっと子どもたちは「学びたい」「できるようにになりたい」という意欲、新しいことに挑戦するエネルギーをたくさん蓄え、これからの人生をたくましく歩んでいってくれるものと思います。5年生の子どもたちの姿に、大きな刺激をもらいました。



## 表彰の記録

○第31回読書感想画中央コンクール  
小学校高学年の部

奨励賞

原 菜月（6年）



## ♣ 子育てアラカルト ♣

### [眼差し(まなざし)]

みなさんは、子どもにどんな「視線」を投げかけているだろうか？

どんな「目つき」で子どもを見ているだろうか？

山下景子著「美人の日本語」より紹介します。

「眼差し」は、「まなざし」と読みます。

「視線」や「目つき」と同じような意味ですが、「目つき」はあまりいい意味には使われていません。「目つき」→「視線」→「眼差し」の順に好感度がアップしていくように思えます。

眼差しは、目に込められた表情を含む言葉です。また、眼差しは、見るものと見られる対象が合うことを意味し、目つきは、目がすでに備わっている感じを言うのだそうです。眼差しには、心が伴うわけですね。

人はいつも、誰かの目を無意識のうちに感じているものなのかもしれません。例えば、親、友、異性、世間一般の人々……。

でも、それらは、もしかするとあなた自身の心の目なのかもしれません。いつも誰かが見守っていてくれる……。そう思えることが、あなたを輝かせる第一歩。まずは自分自身を、あたたかい眼差しで見守ってあげましょう。

(ある教育者のひとり言 より)